鳥インフルエンザワクチン接種・攻撃試験（案）

（資料5）

１．経緯

- 過去2回の検討会において、我が国でワクチン接種の議論を進めるためには、海外のデータのみに依拠するのではなく、国内でワクチンに関するデータを収集し、得られたデータに基づく議論が必要とされた。
- これを受け、令和9年度に、抗原性を現在の流行株に適合させた改良ワクチンの接種試験及び攻撃試験を実施し、ワクチンの効果や免疫の持続性等を評価することとする。
- 試験に用いるワクチンは、まずは、カルタヘナ法の手続きが不要な国内備蓄ワクチンの改良版とし、細胞性免疫を誘導することができるベクターワクチン、mRNAワクチン等のワクチンを用いた追加試験についても検討を行う。

２．目的

- 改良ワクチンA（H5N4：DIVA対応）及び改良ワクチンB（H5N1：DIVA非対応）の有効性の検証
- 改良ワクチンA（及び対応する抗体検査法）のDIVA能の検証
- ワクチン接種採卵鶏感染時のin-egg感染に関する知見の収集

３．方法

①改良ワクチンA接種群、②改良ワクチンB接種群、③コントロール群の計3群（10羽/群）について、24週齢目で、現在の流行株で攻撃。

※　①については、in-egg感染があった場合に産卵個体を特定できるよう1羽ずつ分けて飼養

